

評価結果概要表

【評価実施概要】

| | | | |
|------|------------------|-------|------------|
| 事業所名 | グループホーム 悠楽苑 | | |
| 所在地 | 周南市中須南字鎌田2553-13 | | |
| 電話番号 | 0834-89-5100 | 事業所番号 | 3591500040 |
| 法人名 | 社会福祉法人 大和福祉会 | | |

| | | | |
|--------------|--|-------|------------------|
| 訪問調査日 | 平成 22 年 2 月 15 日 | 評価確定日 | 平成 22 年 5 月 20 日 |
| 評価機関の名称及び所在地 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |

【情報提供票より】

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 19 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員計 | 18 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 8 人 非常勤 3 人 (常勤換算 9,8 人) | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|---------|---------|
| 建物構造 | 鉄骨平屋 造り | |
| | 1 階建ての | ~ 1 階部分 |

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|--------|------------------------|-------|------------|
| 家賃 | 月額 30,000 円 | 敷金 | 有 50,000 円 |
| 保証金 | 無 円 | 償却の有無 | |
| 食費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 100 円 |
| その他の費用 | 月額 22,500 円 | | |
| | 内訳 光熱水費・管理費・日用品費・教養娯楽費 | | |

(4) 利用者の概要 (2月15日現在)

| | | | | |
|------|-----------|---|--------|---------|
| 利用者数 | 17 名 | | 男性 5 名 | 女性 12 名 |
| | 要介護1 | 3 | 要介護4 | 3 |
| | 要介護2 | 7 | 要介護5 | 3 |
| | 要介護3 | 1 | 要支援2 | |
| 年齢 | 平均 82,7 歳 | | 65 歳 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------------|
| 協力医療機関名 | 医科 周南高原病院・神田医院 歯科 さえき歯科クリニック |
|---------|---------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)
毎日、2ユニット合同の昼礼で連携し、シフト制も取り入れて、管理者と職員の共有事項や利用者の状況を把握し、一人ひとりを見つめたケアや関係づくりをされています。利用者の状況により、1ユニットのホールに集まり、利用者の気分転換を図ったり、利用者の関係づくりや居心地の良い共用空間づくりに取り組まれています。個別の希望に寄り添って、親身に支援され、身寄りのない物故者の仏壇(永代供養)も置かれています。

(特徴的な取組等)
重度化した場合における対応指針を定めて、看護師、かかりつけ医の医療連携体制が整備され、職員全員が重度化のためのデモンストレーションの勉強会を毎月1回開催し、意欲的に介護に取り組んでおられます。利用者と一緒に献立を作成し、食材の買い物に出かけたり、出かけた先で利用者が「ソフトクリームが食べたい」車中より見える景色で「つるの里に寄りたい」等の要望にそうなど、事業所の多機能を活かした柔軟な支援がされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)
評価結果について、第三者委員の選任、同業者との交流を通じた向上等今後も継続して取り組まれます。

(今回の自己評価の取組状況)
自己評価書を職員に配布し、記入してもらい、管理者がまとめてたものを会議で検討され、作成されています。自己評価がホームの漸進になり、職員の共通認識になっています。

(運営推進会議の取組状況)
地区社協会長、消防署職員、地区をよりよくする会会長、自治会長、駐在所、郵便局長、市役所支所長、管理者、職員で2カ月に1回開催し、ホームの状況、外部評価結果などを報告し、意見交換をされています。消防署より災害時の対応強化についての情報提供や地域行事について教えて貰うなどサービスに活かされています。

(家族との連携状況)
毎月、利用料請求書と一緒に、利用者の健康状態、暮らしぶりを手紙で報告したり、3ヶ月に1回悠楽苑だよりに行事の写真をそえて送付しています。ほぼ毎日面会に来れる家族もあり、利用者の中に解け込んで利用者みんなの家族になっておられ、楽しい雰囲気となっています。面会時には利用者の状況を伝えたり、要望や意見を聞いたりされています。

(地域との連携状況)
自治会に加入し、地域の祭り、敬老会、小学校や幼稚園のふれあいなどに参加したり、中学校の生徒で集めたプルタブの報奨金で、感謝の気持ちのお花の贈呈がある等地域との連携が図られています。地域のボランティア活動や地域集會に参加し、地域の協力を得ておられます。

評価結果

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|--|---|-----------------------------------|
| <p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | <p>「家庭的な雰囲気大切に、入居者の笑顔あふれる穏やかな地域と密着した生活を目指します」などの事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | <p>理念は玄関、事務所、キッチンに掲示し、管理者と職員は理念を共有し、昼礼やケア会議で確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p> | |
| <p>2. 地域との支えあい</p> | | | |
| 3 (7) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | <p>自治会に加入し、地域の行事に参加し、近隣の小学生や幼稚園児と合同の運動会やクリスマス会を行い、地域の人々との交流に努めている。中学校の生徒が集めたプルタブの報奨金でお花の贈呈がある等交流が出来ている。</p> | |
| <p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p> | | | |
| 4 (9) | <p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> | <p>管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価書を全職員に配布し、記入してもらい、会議で検討して、サービスの向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで検討し、具体的な改善に取り組んでいる。</p> | |
| 5 (10) | <p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p> | <p>市役所支所長、社会福祉協議会会長、消防署職員、駐在所職員、郵便局長、地区をよりよくする会会長、管理者、職員、利用者で運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、ホームの状況説明や意見交換をしている。行事等教えてもらい、サービスに活かしている。</p> | |
| 6 (11) | <p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | <p>市役所支所、市役所とは利用者の相談等で行き来し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|----------------------------------|
| 4. 理念を実践する為の体制 | | | |
| 7 (16) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 毎月、利用料請求書と一緒に、利用者の暮らしぶりや健康状態、3ヶ月に1回ホーム便りに行事写真や職員の異動などを報告している。家族の面会時や電話などで個々に合わせた報告をしている。 | |
| 8 (18) | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 苦情相談受け付け窓口及び職員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確にしている。第三者委員の選任はしていない。家族の訪問時や電話等で意見や要望を聞いて、会議で話し合い、運営に反映させている。 | ・第三者委員の選任 |
| 9 (20) | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 並列の2ユニットに1人の夜勤者であるが、利用者の居室の配置を工夫したり、利用者の状況では看護師の宿直を配慮したり、職員を確保するための話し合いや勤務調整に努めている。 | |
| 10 (21) | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 職員は日頃より2ユニットを行き来して、利用者との馴染みの関係が出来ており、異動や離職は出来るだけ最小限に抑えるように努め、変わる場合は重複勤務を2週間行い、利用者のダメージを少なくするように努力している。 | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 11 (22) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 職員を段階に応じて育成する苑内研修は毎月行っており、外部研修は必要に応じて受ける機会の確保や、働きながらトレーニング出来るように取り組んでいる。 | |
| 12 (24) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 山口県宅老所・グループホーム連絡会に管理者が参加してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。職員が同業者と交流する機会は少ない。 | ・同業者との交流の検討 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|--|----------------------------------|
| <p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> | | | |
| 13 (31) | <p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p> | <p>本人が安心して、サービスを利用するため、事前の訪問や家族と一緒に見学してもらい、職員や利用者と一緒にお茶を飲みながら、場の雰囲気に馴染めるように工夫をしている。</p> | |
| <p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p> | | | |
| 14 (32) | <p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p> | <p>職員は利用者と一緒に過ごす中で、調理の味付けや魚の調理法を教わったり、庭木の剪定作業を一緒にしながら、時期を教えてもらったりする等支え合う関係を築いている。</p> | |
| <p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p> | | | |
| 15 (38) | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>日々のかかわりの中で、利用者の会話や行動に気をつけて希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者から情報を得るようにしている。</p> | |
| <p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p> | | | |
| 16 (41) | <p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p> | <p>毎月1回ケアカンファレンスを開催し、計画作成者や利用者担当職員で話し合っている。面会時や電話で家族の意見を聞いたりして、アイデアを反映した介護計画を作成している。</p> | |
| 17 (42) | <p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p> | <p>月1回モニタリングや、介護計画の期間に応じて見直しを行い、状態に変化が生じた時は、現状に即した新たな計画を作成している。</p> | |
| <p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p> | | | |
| 18 (44) | <p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p> | <p>医療受診や送迎の支援、買い物、ドライブ、外食、2ヶ月に1回の移動理美容の支援等、その時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|--|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 19 (49) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | ホームの協力医がかかりつけ医になっているが本人や家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | |
| 20 (53) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 重度化した場合における対応指針を作成し、本人や家族、かかりつけ医と話し合い職員全員で共有している。重度化を想定してのデモンストレーションの勉強会を毎月行っている。 | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 21 (56) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。 | 利用者の尊厳やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はないように会議で話し合っている。記録は保管庫に入れ、個人情報の取り扱いには注意している。 | |
| 22 (59) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 職員の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、食事に時間がかかる人は早くから食べてもらおう等希望に沿って支援している。 | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 23 (61) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 三食ホームで調理し、利用者の好みや要望を聞いて、利用者と一緒に準備や調理、片付けをして食事を楽しんでいる。ミキサー食や刻み食等一人ひとりが食事を楽しめるように支援し、外食も取り入れている。 | |
| 24 (64) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。 | 毎日、午前中に利用者のタイミングに合わせて入浴しているが、利用者の希望で、午後でも入浴が楽しめるように支援している。利用者の状況に応じて、部分浴、清拭なども支援している。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 25 (66) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 一人ひとりの生活歴や力を活かして畑づくり、カラオケ、剪定、箱作り、料理の得意な人等活躍出来る場面づくりや楽しみごと等の支援をしている。男性3人が洗濯物をきちんとたたんでいる姿が印象的である。 | |
| 26 (68) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 天気の良い日は散歩に出たり、買い物でソフトクリームを食べたり、ドライブに出かけて、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけるように支援している。 | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | |
| 27 (74) | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | 管理者、全職員は研修で身体拘束を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | |
| 28 (75) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 管理者、職員は居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、チャイムを設けて察知し、利用者と職員は一緒に出かけるケアに取り組んでいる。 | |
| 29 (78) | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 事故、ヒヤリはっと報告書を整備し、記録して会議で対策を検討している。ヒヤリはっと報告書を参考に、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | |
| 30 (79) | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 全ての職員が利用者の急変や事故発生に備え、利用者の緊急度に応じて、応急手当や初期対応について毎月デモンストレーションを行っている。 | |
| 31 (81) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 年2回、地域消防団の協力で昼夜を問わず利用者が避難訓練を実施している。水害等の災害時マニュアルを消防署との協力で作成している。自治会集会などで地域の人々の協力を得られるように働きかけている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取 組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---|---|---|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 32 (84) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | 利用者一人ひとりの「経過記録綴り」を作成し、職員は薬の目的や副作用など理解しており、ユニットごとに、ファイルした薬の一覧表をキッチンに置いている。必要な情報は看護師、主治医にフィードバックしている。 | |
| 33 (86) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | 毎食後一人ひとりの力量に応じた支援をし、歯ブラシや義歯は夜勤の職員が消毒し、保管している。歯のない人は舌ブラシで口臭予防にデンタルリンスを使用する等支援している。 | |
| 34 (87) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 職員は1週間の献立を作成し、カロリー、蛋白質、塩分量まで計算している。食事の摂取量や水分量は記録し、水分摂取量最低1リットルを目標に支援している。栄養バランスについては管理栄養士に相談し、助言をもらっている。 | |
| 35 (88) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | 感染症予防対策マニュアルがあり、マニュアルを定期的に昼礼で閲覧し、日々のうがいや手洗いを実行している。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 36 (91) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 共用空間は不快な音や光はなく、2ユニットが開放的で自由に行き来でき、利用者の憩いの場や交流の場になるように工夫している。花壇があり、季節を感じさせ、利用者や職員で食事の準備、片付けなど生活感が感じられるように支援されている。リビングは広く、明るく、壁には季節の版画、カレンダーが飾られ、畳の間に仏壇が置かれ、利用者の心の支えになっている。 | |
| 37 (93) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室は本人や家族と相談して使い慣れたものや好みの椅子、箆笥、テレビ、仏壇、加湿器、コールマットが置かれ、安全で快適に過ごせるように支援されている。 | |

自己評価書

【ホームの概要】

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所名 | グループホーム悠楽苑 |
| 所在地 | 周南市中須南字鎌田2553 - 13 |
| 電話番号 | 0834 - 89 - 5100 |
| 開設年月日 | 平成 19 年 4 月 1 日 |

【実施ユニットの概要】 (2 月 1 日現在)

| | | | | |
|---------------|-------------|---------|---------|---|
| ユニットの名称 | ユニット花 | | | |
| ユニットの定員 | 9 名 | | | |
| ユニットの 利用者数 | 8 名 | 男性 1 名 | 女性 7 名 | |
| | 要介護 1 | 1 | 要介護 4 | 2 |
| | 要介護 2 | 3 | 要介護 5 | 1 |
| | 要介護 3 | 1 | 要支援 2 | 0 |
| 年齢構成 | 平均 86 , 7 歳 | 最低 78 歳 | 最高 96 歳 | |

【自己評価の実施体制】

| | |
|-------|--------------------------------|
| 実施方法 | 管理者や職員と意見交換を行い、全職員共通認識で評価を行った。 |
| 評価確定日 | 平成 年 月 日 |

【サービスの特徴】

当グループホームはオープン以来から利用者本意のサービス提供を基本理念とし、開設当初から職員全員で考え作った基本理念や運営理念を大切にしながら入居者さんと一緒にゆっくりと楽しく笑顔の溢れるグループホームになっています。レクリエーションも毎日取り入れて笑顔の絶えない日々を皆さんと過ごしています。当グループホームは周南市と言っても山林に囲まれた寒い所にあります。でも地域の方々がとても優しく、あたたかく協力してくださっています。入居者さんや職員に対してもあたたかく受け入れてくださってとても感謝しています。近隣の小学校や保育園からは慰問に来てくださったり、地域の行事でのお大師様、揉山奉納、運動会、敬老会、クリスマス行事等のお誘いを受けたり、地域の名所を知らせてくれたりと協力していただいています。入居者さんと共に出来るだけ大人数で参加出来る様に心掛けています。まだまだ未熟なグループホームですが、職員は明るく笑顔でふれあいを大切に日々頑張っています。いつか地域に貢献できるようなグループホームを目指しています。

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|--|--|
| . 理念に基づく運営 1. 理念の共有 | | | |
| 1 (1) | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 作成している。 | 始業時に各職員で確認して業務を開始している。 |
| 2 (2) | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 職員全員が理念を持ち続け実践して行ける様に日々の意志確認は行いたい。 |
| 3 | 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。 | 管理者は職員に対して玄関、事務所に運営理念を掲示しており運営理念を明確化している。 | 職員の理念に対する共通理解が継続できるように心掛ける。 |
| 4 | 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。 | 常日頃から職員との意見交換は頻回に行っている。また職場研修も定期的に行い、職員のサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 今後も職員のサービスの質の向上に取り組んでいきたい。 |
| 5 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。 | 地域の行事等への積極的な参加での入居者の笑顔を通じ、家族や地域の人々に理解して頂けるように取り組んでいる。 | 今後も行事参加や地域の情報を取り入れて地域の事業所として取り組みたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 6 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。 | 地域の方が定期的に慰問に来られたり、散歩中に笑顔での挨拶を心掛けている。 | 今後も気軽に立ち寄って頂けるように、継続して行きたい。 |
| 7 (3) | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域の行事や活動に積極的に参加し、近隣の小学校や幼稚園児と合同で運動会やクリスマス会を行い、地域の人々との交流に努めている。 | 今後も継続して行って行きたい。 |
| 8 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 運営推進会議を通じて話し合っただけ実績は少ないが介護相談を行っている。 | 地域の方々がいつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気を作り、情報提供の場にして行きたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 9 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 方向性の確認や修正を行いながら、日々確認しながら取り組んでいる。 | 評価を活かして取り組みを継続していきたい。 |
| 10 (5) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 | 運営推進会議を苑で定期的に行うことによって当グループホームでの生活を地域の方々にお見せする機会になっている。話し合いを通じて行事や名所等を教えて頂くことも多く、サービスに活かしている。 | 今後も色々な事が話し合える様に努め、地域行事にも積極的に参加したい。 |
| 11 (6) | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 支所には定期的に何うようにしており、市役所には生保の受け入れの関係で社会課には行き来する機会が多い。 | 色々と相談してサービスの向上を目指したい。 |
| 12 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 | 活用の実績は無いが管理者や職員は学ぶ機会を作っていくたい。 | 学ぶ機会を作る。 |
| 13 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 虐待が見過ごされる事が無いように注意を払い、防止に努めている。 | 毎月の勉強会に取り入れる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 14 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居者の家族の不安や疑問を尋ねて十分な説明を行い、理解や納得を得ている。 | |
| 15 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 入居者が何でも訴えられるように職員はゆったりと笑顔で接し、雰囲気作りに努めている。意見、不満、苦情がある入居者には管理者、又は副管理者が話を納得がいくまで何うように努め、対応している。 | |
| 16 (7) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 金銭管理や職員の異動の報告は毎月、利用請求書と共に送付、又は手渡ししている。暮らしぶりや健康面の報告は適時行っている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------|---|----------------|-----------------------------------|
| 17 | 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 | | |
| 18 (8) | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | | |
| 19 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | | 今後も意見や提案の出やすい風通しの良い職場作りを心掛けていきたい。 |
| 20 (9) | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | | |
| 21 (10) | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最低限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | | 今後もやりがいのある職場と人間関係を作っていきたい。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 22 (11) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | | |
| 23 | 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 | | |
| 24 (12) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | | グループホーム連絡会に参加する機会を作り、交流の機会を持つ。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|---|
| 25 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | | 定期的に意識調査や面談の機会を持つ。 |
| 26 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 27 | 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 | | 処遇等において、適切な評価ができています。 |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 28 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 今後も時間を確保してじっくり傾聴する。 |
| 29 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 今後も利用に至るまでにできるだけ情報収集し、話す機会を増やしていく。 |
| 30 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | 多面的にその方のサービスを評価できるように努める。 |
| 31 (13) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | | 家族と相談して見学を作り、レクリエーションに参加して頂いている。入居時も遅い時間ではなく、昼食前後に入居して頂き、場に馴染んで頂いている。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 32 (14) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | | 尊厳を大事にして一緒に作業を行ったり、レクリエーションや会話を通じて共感している。 今後も一緒に共感できる環境を作る。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---------------------------------------|----------------|--|
| 33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | できるだけ家族と連携をとり、面会時にも近況報告をして関係作りに努めている。 | | 今後も家族との連携を継続していく。 |
| 34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 家族関係を本人や家族から傾聴し、理解に努めている。 | | 面会になかなか来られない家族には差し支えがなければ直接本人から電話を掛けたり等の支援を継続していく。 |
| 35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 本人の友人や近所の方々からの来苑には心良い対応に努めている。 | | 定期的に外出の機会を増やしていきたい。 |
| 36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | レクリエーションや家事手伝いを通じて関わりを作っている。 | | |
| 37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 今までにケースは無いが、あれば関係を大切にしていく。 | | 退所時にも声掛けし、この様なケースがあれば対応していく。 |
| <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p> | | | |
| 38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 各入居者の担当を作り、希望の達成や意向の徴収に努めている。 | | 今後も話し合いの機会を増やして以降の把握に努めていく。 |
| 39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 努めている。 | | 継続して生活歴の見直しや会話から把握に努める。 |
| 40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 総合的に把握するように努めている。 | | 今後も毎日の記録やケアカンファで新たな発見や残存機能の把握していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|---|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 41 (16) | チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 作成している。 | 色々な意見が反映できるケアカンファを行い、利用者にとって有意義な計画の作成を心掛けたい。 |
| 42 (17) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 見直しは必要時行い、現状に即した計画を作成している。 | ADLの変化や特記事項、話し合いを参考に現状に即した計画を作成する。 |
| 43 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の記録の徹底を行い、毎日の利用者の変化を把握していきたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 44 (18) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。 | 外出や外泊対応が可能な家族には家族対応を依頼して不可能な入居者には職員で対応し、柔軟な対応を行なっている。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 45 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関と協力しながら支援している。 | 今後も各期間と協力しながら支援していく。 |
| 46 | 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族、ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 今後も積極的に対応、開催していきたい。 |
| 47 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 本人の意向や必要性に応じて、地域のほかの介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 必要があれば支援していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|---|----------------|---|
| 48 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | | 今後も必要性に応じて協働していく。 |
| 49 (19) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | | 今後も協力医との関係を深めていく。 |
| 50 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | | 今後も医師との関係を深めていく。 |
| 51 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保健師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | | 今後も連携に努める。 |
| 52 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | | 今後も連携に努める。 |
| 53 (20) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | | 現在も末期の癌や致死性の高い病気を持つ利用者があるが、今後も本人や家族と今後の方針についてしっかりと話し合う。 |
| 54 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | | 利用者の変化を家族、医師と話し合いながら今後の変化や対応を検討し、準備している。 |
| 55 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。 | | ケアカンファや情報提供を十分に行なっている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|---|
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 56 (21) | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | 一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応は慎み、記録等においても十分な配慮がなされるようにしている。 | 今後も心掛ける。 |
| 57 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | 本人が思いや希望を表現できるように働きかけたり、解る力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。 | 今後も本人に合わせた口調やペースで話をしていく。 |
| 58 | <p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> | 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品の好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。 | 買い物での支払い、日常での家事手伝い等を行なってもらい、今後もできる力を支援していく。 |
| 59 (22) | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。 | 安全・安楽・安心をベースに会話を増やして希望に沿えるように継続していく。 |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 60 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人が望む店に行ける様に努めている。 | 選択肢を出来るだけ広げ、本人に選択していただける環境を今後も増やしていく。 |
| 61 (23) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | 食事が楽しみになるよう、一人一人の好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食べたい品目を出来るだけ取り入れて、外食も視野に入れて対応していく。 |
| 62 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> | 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みの物を一人一人の状況に合わせて、日常的に楽しめるように支援している。 | 心身状況を踏まえた上で対応している。 |
| 63 | <p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。 | 一人一人の排泄パターンでのトイレ誘導や声掛け、失禁後の清潔保持を心掛けていく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|--|----------------|---|
| 64 (24) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。 | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。 | | 入浴時間やタイミングを考慮して出来るだけ入浴を楽しめるように支援している。 |
| 65 | 安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。 | 一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるように支援している。 | | 昼夜逆転や生活リズムを狂わせないように心掛けて支援を継続する。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 66 (25) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かし活躍できる場面を作り、楽しみごとや気晴らしのできる生活が送れるように支援している。 | | 多方面から生活歴を把握する。 |
| 67 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人一人の希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | | 状況に応じて対応していく。 |
| 68 (26) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 気候に応じて散歩に出掛けたり、定期的にドライブ等で外出している。 | | 出来るだけ希望に沿えるように考慮する。 |
| 69 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | 一人一人が行ってみたい普段は行けない所に、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会を作り支援している。 | | 徐々に個別対応での外出や買い物を取り入れているが、今後は頻度を増やすように考えていく。 |
| 70 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 家族や大切な人に本人が自ら電話したり、手紙のやり取りが出来るように支援している。 | | 家族と相談しながら支援している。 |
| 71 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問でき、心地良く過ごせるように工夫している。 | | 笑顔で挨拶したり、歓迎を継続していく。 |
| 72 | 家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。 | 宿泊は要望が無いが、宿泊希望があれば対応する。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|----------------|---|
| 73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 | 苑内行事への参加はあるが、呼びかけには対応が欠けていた。 | | 利用者の誕生日会等は特に参加の呼びかけをしていく。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | 正しく理解しており、抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。 | | 法令を勉強会に取り入れる。 |
| 75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 運営者及び全ての職員が居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。 | | 実際には徘徊が多くなかなか難しい部分もあるが今後も継続して鍵を掛けないケアの実践を心掛けたい。 |
| 76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様数を把握し、安全に配慮している。 | | 職員全員で徹底して取り組む。 |
| 77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律に無くすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 注意の必要な物品を一律に無くすのではなく、一人一人の状況に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。 | | 日地口一人の能力を常に考えて対応していく。 |
| 78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐために知識を学び、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | | 継続して勉強会に取り入れていく。 |
| 79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | | 今後も様々なケースを想定して訓練していく。 |
| 80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 | 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書やひやりはっと報告書等をまとめると共に、発生防止のための改善策を講じている。 | | 今後もミーティングにて事故防止の対応を継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|----------------|----------------------------------|
| 81 (31) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | | 避難訓練を継続し、啓発活動を行なっている。 |
| 82 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。 | | 家族との連携を深める。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 83 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | | |
| 84 (32) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | | |
| 85 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | | 排便チェックを行い対応している。 |
| 86 (33) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | | 継続して取り組む。異常があれば歯科受診して指示を仰ぐ。 |
| 87 (34) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | | 今後も継続していく。 |
| 88 (35) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | | マニュアルを定期的を読む。 |
| 89 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | | 今後も衛生管理には気を付ける。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|--|---------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 90 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 掃除や環境作りを継続して取り組む。 |
| 91 (36) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光が無いように配慮すると共に、生活感や季節感など五感に働きかけるような刺激を取り入れて居心地よく能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 季節感のある取り組みを継続する。 |
| 92 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共有空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の確保に努めている。 | 状況に応じてさりげない声掛けや環境に気を配る。 |
| 93 (37) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 継続して家族や本人の意向を取り入れる。 |
| 94 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 気になる臭いや空気のとどみが無いように換気に努め、温度調節は外気温と大きな差が出ないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに対応している。 | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 95 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。 | 建物内部は一人一人の身体機能を活かして、安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | |
| 96 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 一人一人のわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して生活ができる様に工夫している。 | |
| 97 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動出来るように活かしているが、寒い時は活かされてない。 | 建物周囲や空間の利用方法を今後も検討する。 |

| 項目 | | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | |
|-----------------|--|-----------------------------|------------------------------|
| . サービスの成果に関する項目 | | | |
| 98 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの | 利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない |
| 99 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 | 毎日ある たまにある | 数日に1回程度ある ほとんどない |
| 100 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 101 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 102 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 103 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 104 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 105 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 | ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと | 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない |
| 106 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 | ほぼ毎日のように たまに | 数日に1回程度 ほとんどない |
| 107 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | 大いに増えている あまり増えていない | 少しずつ増えている 全くいない |
| 108 | 職員は、生き活きと働けている。 | ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが | 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 109 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 110 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが | 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない |

自己評価書

【ホームの概要】

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所名 | グループホーム悠楽苑 |
| 所在地 | 周南市中須南字鎌田2553 - 13 |
| 電話番号 | 0834 - 89 - 5100 |
| 開設年月日 | 平成 19 年 4 月 1 日 |

【実施ユニットの概要】 (2 月 1 日現在)

| | | | | |
|---------------|-----------|---------|---------|---|
| ユニットの名称 | ユニット木 | | | |
| ユニットの定員 | 9 名 | | | |
| ユニットの 利用者数 | 9 名 | 男性 4 名 | 女性 5 名 | |
| | 要介護 1 | 2 | 要介護 4 | 1 |
| | 要介護 2 | 4 | 要介護 5 | 2 |
| | 要介護 3 | 0 | 要支援 2 | 0 |
| 年齢構成 | 平均 82.7 歳 | 最低 65 歳 | 最高 96 歳 | |

【自己評価の実施体制】

| | |
|-------|--------------------------------|
| 実施方法 | 管理者や職員と意見交換を行い、全職員共通認識で評価を行った。 |
| 評価確定日 | 平成 年 月 日 |

【サービスの特徴】

当グループホームはオープン以来から利用者本意のサービス提供を基本理念とし、開設当初から職員全員で考え作った基本理念や運営理念を大切にしながら入居者さんと一緒にゆっくりと楽しく笑顔の溢れるグループホームになっています。レクリエーションも毎日取り入れて笑顔の絶えない日々を皆さんと過ごしています。当グループホームは周南市と言っても山林に囲まれた寒い所にあります。でも地域の方々がとても優しく、あたたかく協力してくださっています。入居者さんや職員に対してもあたたかく受け入れてくださってとても感謝しています。近隣の小学校や保育園からは慰問に来てくださったり、地域の行事でのお大師様、揉山奉納、運動会、敬老会、クリスマス行事等のお誘いを受けたり、地域の名所を知らせてくれたりと協力していただいています。入居者さんと共に出来るだけ大人数で参加出来る様に心掛けています。まだまだ未熟なグループホームですが、職員は明るく笑顔でふれあいを大切に日々頑張っています。いつか地域に貢献できるようなグループホームを目指しています。

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り 組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|--|--|
| <p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p> | | | |
| 1 (1) | <p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p> | 作成している。 | 始業時に各職員で確認して業務を開始している。 |
| 2 (2) | <p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> | 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 職員全員が理念を持ち続け実践して行ける様に日々の意志確認は行いたい。 |
| 3 | <p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p> | 管理者は職員に対して玄関、事務所に運営理念を掲示しており運営理念を明確化している。 | 職員の理念に対する共通理解が継続できるように心掛ける。 |
| 4 | <p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p> | 常日頃から職員との意見交換は頻回に行っている。また職場研修も定期的に行い、職員のサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 今後も職員のサービスの質の向上に取り組んでいきたい。 |
| 5 | <p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> | 地域の行事等への積極的な参加での入居者の笑顔を通じ、家族や地域の人々に理解して頂けるように取り組んでいる。 | 今後も行事参加や地域の情報を取り入れて地域の事業所として取り組みたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 6 | <p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p> | 地域の方が定期的に慰問に来られたり、散歩中に笑顔での挨拶を心掛けている。 | 今後も気軽に立ち寄って頂けるように、継続して行きたい。 |
| 7 (3) | <p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> | 地域の行事や活動に積極的に参加し、近隣の小学校や幼稚園児と合同で運動会やクリスマス会を行い、地域の人々との交流に努めている。 | 今後も継続して行って行きたい。 |
| 8 | <p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> | 運営推進会議を通じて話し合っただけ実績は少ないが介護相談を行っている。 | 地域の方々がいつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気を作り、情報提供の場にして行きたい。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 9 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 方向性の確認や修正を行いながら、日々確認しながら取り組んでいる。 | 評価を活かして取り組みを継続していきたい。 |
| 10 (5) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。 | 運営推進会議を苑で定期的に行うことによって当グループホームでの生活を地域の方々にお見せする機会になっている。話し合いを通じて行事や名所等を教えて頂くことも多く、サービスに活かしている。 | 今後も色々な事が話し合える様に努め、地域行事にも積極的に参加したい。 |
| 11 (6) | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 支所には定期的に何うようにしており、市役所には生保の受け入れの関係で社会課には行き来する機会が多い。 | 色々と相談してサービスの向上を目指したい。 |
| 12 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。 | 活用の実績は無いが管理者や職員は学ぶ機会を作っていきたい。 | 学ぶ機会を作る。 |
| 13 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 虐待が見過ごされる事が無いように注意を払い、防止に努めている。 | 毎月の勉強会に取り入れる。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 14 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居者の家族の不安や疑問を尋ねて十分な説明を行い、理解や納得を得ている。 | |
| 15 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 入居者が何でも訴えられるように職員はゆったりと笑顔で接し、雰囲気作りに努めている。意見、不満、苦情がある入居者には管理者、又は副管理者が話を納得がいくまで何うように努め、対応している。 | |
| 16 (7) | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 金銭管理や職員の異動の報告は毎月、利用請求書と共に送付、又は手渡ししている。暮らしぶりや健康面の報告は適時行っている。 | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|-----------------------------------|
| 17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 | 情報開示の要求があれば応じる。 | | |
| 18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 | 契約時に苦情相談窓口の設定を説明し、掲示している。相談があれば即座に対応、解決に努めている。 | | |
| 19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月、ミーティングにて職員の意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り反映している。又、会議以外でも聞く機会を設けている。 | | 今後も意見や提案の出やすい風通しの良い職場作りを心掛けていきたい。 |
| 20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 夜間は2ユニットを夜勤者が1人で対応しているが、管理者は以上時にはすぐに駆けつける体制を整え、また近隣職員にも緊急時対応字の協力は要請している。必要に応じては宿直者を確保したり必要な時間帯には話し合いや調整に努めている。 | | |
| 21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最低限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。入居者への配慮も各職員で配慮できている。 | | 今後もやりがいのある職場と人間関係を作っていきたい。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 段階の応じて育成するために計画を立てている。苑内研修は毎月行っており、苑外研修は必要に応じて機会を作り働きながらスキルアップ出来る様に努めている。 | | |
| 23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 | 職員の資質や能力を考えて配置している。 | | |
| 24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 管理者のみでしか交流する機会が持っていない。 | | グループホーム連絡会に参加する機会を作り、交流の機会を持つ。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|----------------|--|
| 25 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | | 定期的に意識調査や面談の機会を持つ。 |
| 26 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 27 | 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。 | | 処遇等において、適切な評価ができています。 |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 28 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 今後も時間を確保してじっくり傾聴する。 |
| 29 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。 | | 今後も利用に至るまでにできるだけ情報収集し、話す機会を増やしていく。 |
| 30 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | 多面的にその方のサービスを評価できるように努める。 |
| 31 (13) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | | 家族と相談して見学の機会を作り、レクリエーションに参加して頂いている。入居時も遅い時間ではなく、昼食前後に入居して頂き、場に馴染んで頂いている。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 32 (14) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | | 尊厳を大事にして一緒に作業を行ったり、レクリエーションや会話を通じて共感している。今後も一緒に共感できる環境を作る。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|----------------|--|
| 33 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | | 今後も家族との連携を継続していく。 |
| 34 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | | 面会になかなか来られない家族には差し支えがなければ直接本人から電話を掛けたり等の支援を継続していく。 |
| 35 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | | 定期的に外出の機会を増やしていきたい。 |
| 36 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | | |
| 37 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | | 退所時にも声掛けし、この様なケースがあれば対応していく。 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握 | | | |
| 38 (15) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | | 今後も話し合いの機会を増やして以降の把握に努めていく。 |
| 39 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | 継続して生活歴の見直しや会話から把握に努める。 |
| 40 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | | 今後も毎日の記録やケアカンファで新たな発見や残存機能の把握していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|---|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 41 (16) | チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 作成している。 | 色々な意見が反映できるケアカンファを行い、利用者にとって有意義な計画の作成を心掛けたい。 |
| 42 (17) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 見直しは必要時行い、現状に即した計画を作成している。 | ADLの変化や特記事項、話し合いを参考に現状に即した計画を作成する。 |
| 43 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の記録の徹底を行い、毎日の利用者の変化を把握していきたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 44 (18) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。 | 外出や外泊対応が可能な家族には家族対応を依頼して不可能な入居者には職員で対応し、柔軟な対応を行なっている。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 45 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関と協力しながら支援している。 | 今後も各期間と協力しながら支援していく。 |
| 46 | 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族、ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。 | 今後も積極的に対応、開催していきたい。 |
| 47 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 本人の意向や必要性に応じて、地域のほかの介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 必要があれば支援していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|---|----------------|---|
| 48 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | | 今後も必要性に応じて協働していく。 |
| 49 (19) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | | 今後も協力医との関係を深めていく。 |
| 50 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | | 今後も医師との関係を深めていく。 |
| 51 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保健師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | | 今後も連携に努める。 |
| 52 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | | 今後も連携に努める。 |
| 53 (20) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | | 現在も末期の癌や致死性の高い病気を持つ利用者があるが、今後も本人や家族と今後の方針についてしっかりと話し合う。 |
| 54 | 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | | 利用者の変化を家族、医師と話し合いながら今後の変化や対応を検討し、準備している。 |
| 55 | 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。 | | ケアカンファや情報提供を十分に行なっている。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|---|
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 56 (21) | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | 一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応は慎み、記録等においても十分な配慮がなされるようにしている。 | 今後も心掛ける。 |
| 57 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | 本人が思いや希望を表現できるように働きかけたり、解る力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。 | 今後も本人に合わせた口調やペースで話をしていく。 |
| 58 | <p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p> | 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品の好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。 | 買い物での支払い、日常での家事手伝い等を行なってもらい、今後もできる力を支援していく。 |
| 59 (22) | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。 | 安全・安楽・安心をベースに会話を増やして希望に沿えるように継続していく。 |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 60 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人が望む店に行ける様に努めている。 | 選択肢を出来るだけ広げ、本人に選択していただける環境を今後も増やしていく。 |
| 61 (23) | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | 食事が楽しみになるよう、一人一人の好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食べたい品目を出来るだけ取り入れて、外食も視野に入れて対応していく。 |
| 62 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p> | 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みの物を一人一人の状況に合わせて、日常的に楽しめるように支援している。 | 心身状況を踏まえた上で対応している。 |
| 63 | <p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p> | 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。 | 一人一人の排泄パターンでのトイレ誘導や声掛け、失禁後の清潔保持を心掛けていく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|--|----------------|---|
| 64 (24) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。 | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。 | | 入浴時間やタイミングを考慮して出来るだけ入浴を楽しめるように支援している。 |
| 65 | 安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。 | 一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるように支援している。 | | 昼夜逆転や生活リズムを狂わせないように心掛けて支援を継続する。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 66 (25) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かし活躍できる場面を作り、楽しみごとや気晴らしのできる生活が送れるように支援している。 | | 多方面から生活歴を把握する。 |
| 67 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人一人の希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | | 状況に応じて対応していく。 |
| 68 (26) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 気候に応じて散歩に出掛けたり、定期的にドライブ等で外出している。 | | 出来るだけ希望に沿えるように考慮する。 |
| 69 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | 一人一人が行ってみたい普段は行けない所に、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会を作り支援している。 | | 徐々に個別対応での外出や買い物を取り入れているが、今後は頻度を増やすように考えていく。 |
| 70 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 家族や大切な人に本人が自ら電話したり、手紙のやり取りが出来るように支援している。 | | 家族と相談しながら支援している。 |
| 71 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人達が、いつでも気軽に訪問でき、心地良く過ごせるように工夫している。 | | 笑顔で挨拶したり、歓迎を継続していく。 |
| 72 | 家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。 | 宿泊は要望が無いが、宿泊希望があれば対応する。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------|---|
| 73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。 | 苑内行事への参加はあるが、呼びかけには対応が欠けていた。 | | 利用者の誕生日会等は特に参加の呼びかけをしていく。 |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |
| 74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。 | 正しく理解しており、抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。 | | 法令を勉強会に取り入れる。 |
| 75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 運営者及び全ての職員が居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。 | | 実際には徘徊が多くなかなか難しい部分もあるが今後も継続して鍵を掛けないケアの実践を心掛けたい。 |
| 76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様数を把握し、安全に配慮している。 | | 職員全員で徹底して取り組む。 |
| 77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律に無くすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 注意の必要な物品を一律に無くすのではなく、一人一人の状況に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。 | | 日地口一人の能力を常に考えて対応していく。 |
| 78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐために知識を学び、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | | 継続して勉強会に取り入れていく。 |
| 79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | | 今後も様々なケースを想定して訓練していく。 |
| 80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。 | 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書やひやりはっと報告書等をまとめると共に、発生防止のための改善策を講じている。 | | 今後もミーティングにて事故防止の対応を継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|----------------|----------------------------------|
| 81 (31) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | | 避難訓練を継続し、啓発活動を行なっている。 |
| 82 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。 | | 家族との連携を深める。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 83 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | | |
| 84 (32) | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。 | | |
| 85 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | | 排便チェックを行い対応している。 |
| 86 (33) | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。 | | 継続して取り組む。異常があれば歯科受診して指示を仰ぐ。 |
| 87 (34) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | | 今後も継続していく。 |
| 88 (35) | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。 | | マニュアルを定期的を読む。 |
| 89 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | | 今後も衛生管理には気を付ける。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|---|--|---------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 90 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 掃除や環境作りを継続して取り組む。 |
| 91 (36) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光が無いように配慮すると共に、生活感や季節感など五感に働きかけるような刺激を取り入れて居心地よく能動的に過ごせるような工夫をしている。 | 季節感のある取り組みを継続する。 |
| 92 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 共有空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の確保に努めている。 | 状況に応じてさりげない声掛けや環境に気を配る。 |
| 93 (37) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 継続して家族や本人の意向を取り入れる。 |
| 94 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 気になる臭いや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は外気温と大きな差が出ないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに対応している。 | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 95 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。 | 建物内部は一人一人の身体機能を活かして、安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | |
| 96 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 一人一人のわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して生活ができる様に工夫している。 | |
| 97 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動出来るように活かしているが、寒い時は活かされてない。 | 建物周囲や空間の利用方法を今後も検討する。 |

| 項目 | | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | |
|-----------------|--|-----------------------------|------------------------------|
| . サービスの成果に関する項目 | | | |
| 98 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの | 利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない |
| 99 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 | 毎日ある たまにある | 数日に1回程度ある ほとんどない |
| 100 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 101 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 102 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 103 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 104 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 105 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 | ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと | 家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない |
| 106 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 | ほぼ毎日のように たまに | 数日に1回程度 ほとんどない |
| 107 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 | 大いに増えている あまり増えていない | 少しずつ増えている 全くいない |
| 108 | 職員は、生き活きと働けている。 | ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが | 職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 109 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが | 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない |
| 110 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが | 家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない |